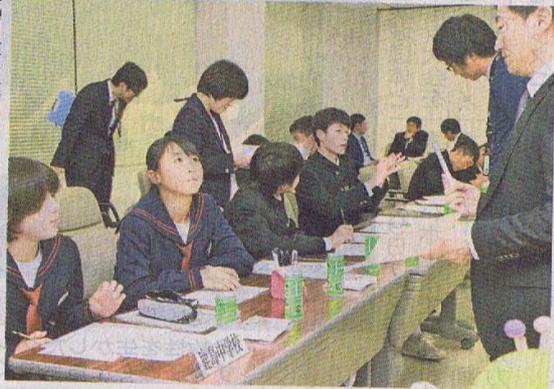


鹿嶋らしいおもてなし 中学生代表 国体向け議論



2019年茨城国体の事業の一環で、鹿嶋市教委は4日、市内6中学校の生徒代表を集め鹿嶋の魅力発信やおもてなしのアイデアについて意見を交わす初のミーティングを開いた。鹿嶋

はサッカー競技を実施。市教委は中学生と検討を重ね、「鹿嶋らしさ」にこだわったプロジェクトを立ち上げ、実行に移す考えだ。生徒のアイデアを形にする「鹿嶋市中学校生徒会連

茨城国体に向け、おもてなしの企画案を議論する中学生たち。鹿嶋市役所

携事業プロジェクト」と名付けたミーティングは、同市平井の市役所で行われ、鹿嶋、高松、鹿野、平井、大野、清真学園の各中学校から生徒会活動などに取り組み2、3年生27人が参加。今後プロジェクトチームの中心を担う。

冒頭、市教委国体推進室の山口和範室長は「鹿嶋らしいおもてなしで、国体が皆さんや子どもたちにとって将来にわたり思い出に残る大会にしたい。力を借りて一緒に進めたい」とあいさつ。担当者が生徒に対し、前回（1974年）の茨城国体をはじめ、競技種目や

市民運動などを紹介した。

鹿嶋で行われるサッカー競技は、県立カシマサッカースタジアムなど5会場で成年男子と少年男子の計40試合を実施する。全国から鹿嶋を訪れる選手や観覧者をどう迎えるか、プロジェクトチームの生徒たちは複数に分かれ企画案を活発に議論。発表では「PR動画をつくりユーチューブに投稿」「鹿島アントラーズの選手のサッカー教室」「特産品の商品化」など多様なアイデアが披露された。今後は各校で生徒会などが主体となってアイデアを募り、次回のミーティングで発表。修正を加えながら年度内にもプロジェクトの方向性を示す予定だ。

（小林久隆）

地域総合



◇身近な情報をお寄せください